

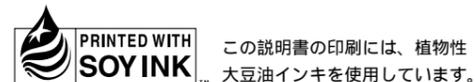
AVH-P7DV 取付説明書

本製品はJEITAコードカラーに対応しています。

車への取り付けは、必ずこの取付説明書と別冊の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ
接続、取り付け作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様へお渡しください。

別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

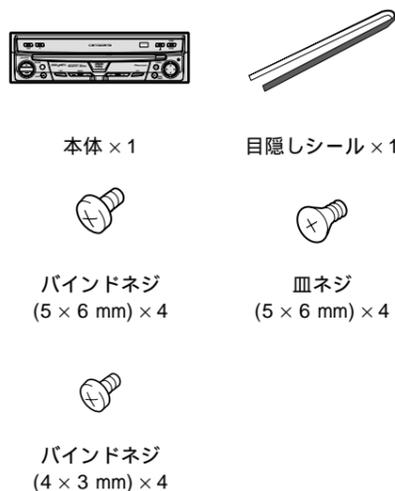


この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

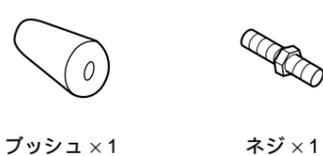
パイオニア株式会社
〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1
この説明書は、再生紙を使用しています。
© パイオニア株式会社 2005
< KNNZF > < 05E00000 > < CRA3723-B >

はじめに 1 接続・取り付け部品を確認する

本体関係



別売の取付キット関係



別売の取付キットで本機を取り付ける場合

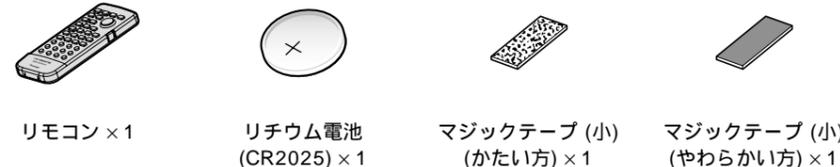
プッシュを使用した取り付けを行う場合、本機に付属のネジとプッシュを使用してください。
別売の取付キットに同梱のネジ、プッシュを使用すると正しく取り付けられないため、本機の故障の原因となります。

はじめに 1 接続・取り付け部品を確認する (つづき)

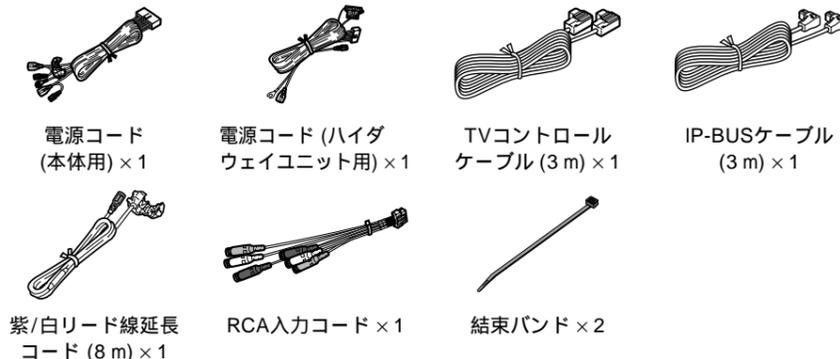
ハイダウェイユニット関係



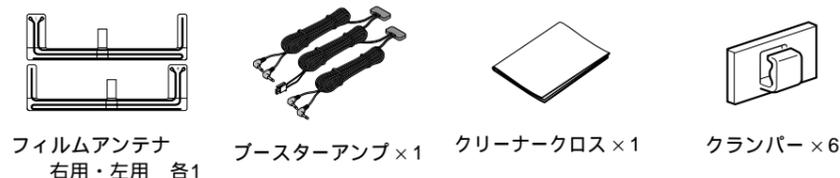
リモコン関係



コード関係



フィルムアンテナ関係



接続 1 接続の前に知ってほしいこと

接続上のご注意

本機と他の製品では同じ働きのコードでも色が異なる場合があります。本機と他の製品とを接続される場合、それぞれの製品に付属の取付説明書をよくお読みになり、同じ働きのコードどうしを接続してください。

本機は、エンジンスイッチにACCがない車では使用できません。必ず、エンジンスイッチにACCがある車でご使用ください。

赤リード線 (アクセサリ電源) は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には、接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗してしまいます。

黒リード線 (アース) は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたときに、製品の発煙・故障の原因となるおそれがあります。

本機のアンプには、BPTLという回路を使用しています。スピーカーリード線を直接アースしたり、複数のスピーカーの (-) リード線を共通にして接続しないでください。

本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力50W以上のハイパワー用で、インピーダンスが4から8のものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーの発火・発煙・破損の原因となります。

若草色リード線 (パーキングブレーキスイッチ) は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。接続しないと、テレビやDVDなどの映像を見ることができなくなります。

ガラスアンテナ車は、アンテナブースターの電源を必ず本機の青リード線 (オートアンテナ) に接続してください。接続を忘れると、ラジオが受信できません。

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります。(ラジオがONにならないと、ブースターがONにならない車もあります。) 詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

接続のポイント

ノイズ防止のために

ノイズ防止のため、フィルムアンテナおよびアンテナコードは、下記の物からできるだけ離して配置してください。

- * 本体
- * TVコントロールケーブル
- * FM/AMアンテナおよびそのアンテナコード
- * RGBケーブル
- * IP-BUSケーブル
- * RCAコード
- * 電源コード
- * 車のコードおよび機器類
- * ナビゲーション本体
- * GPSアンテナ

それぞれのコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感度が悪くなります。

RCAコードに何も接続しない場合は、付属のキャップを外さないでください。

30ピンRGB、IP-BUSおよび光デジタルラインの接続について

30ピンRGB、IP-BUSおよび光デジタルラインの端子とケーブルは、同じ色どうしを接続してください (コネクターの接続部分が色分けされています)。違う色のコネクターを接続すると、正常に動作しないことがあります。

光デジタルラインを接続するときは、キャップを外してから接続してください。

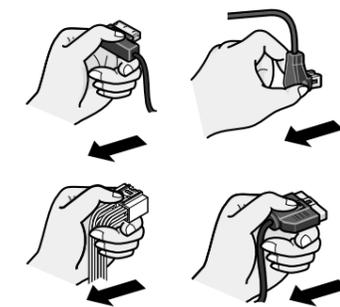
電源配線キットを別売しています

システム全体の消費電流が大きくなると、電圧が不足する場合があります。そのようなときは、バッテリーから直接電源をお取りください。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

コネクターの着脱のしかた

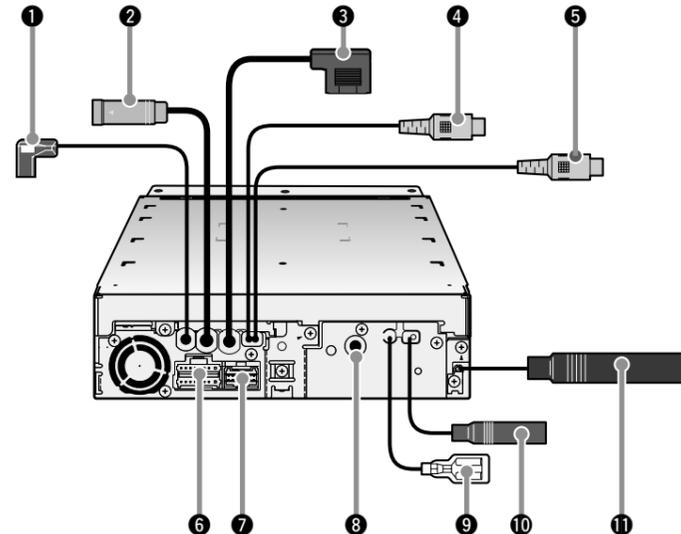
コネクターは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。スムーズに入らない場合は、色が間違っている可能性がありますので、コネクターどうしの色を確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。

コネクターを外すときは、図のようにコネクター部分を持ってロックを押しながら、引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。

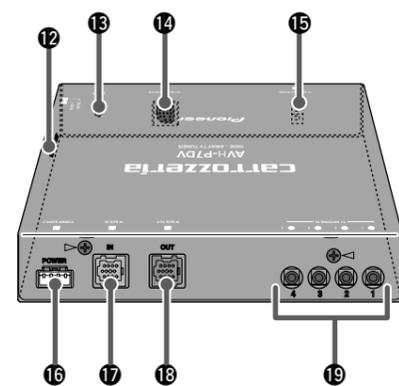


詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください

本体

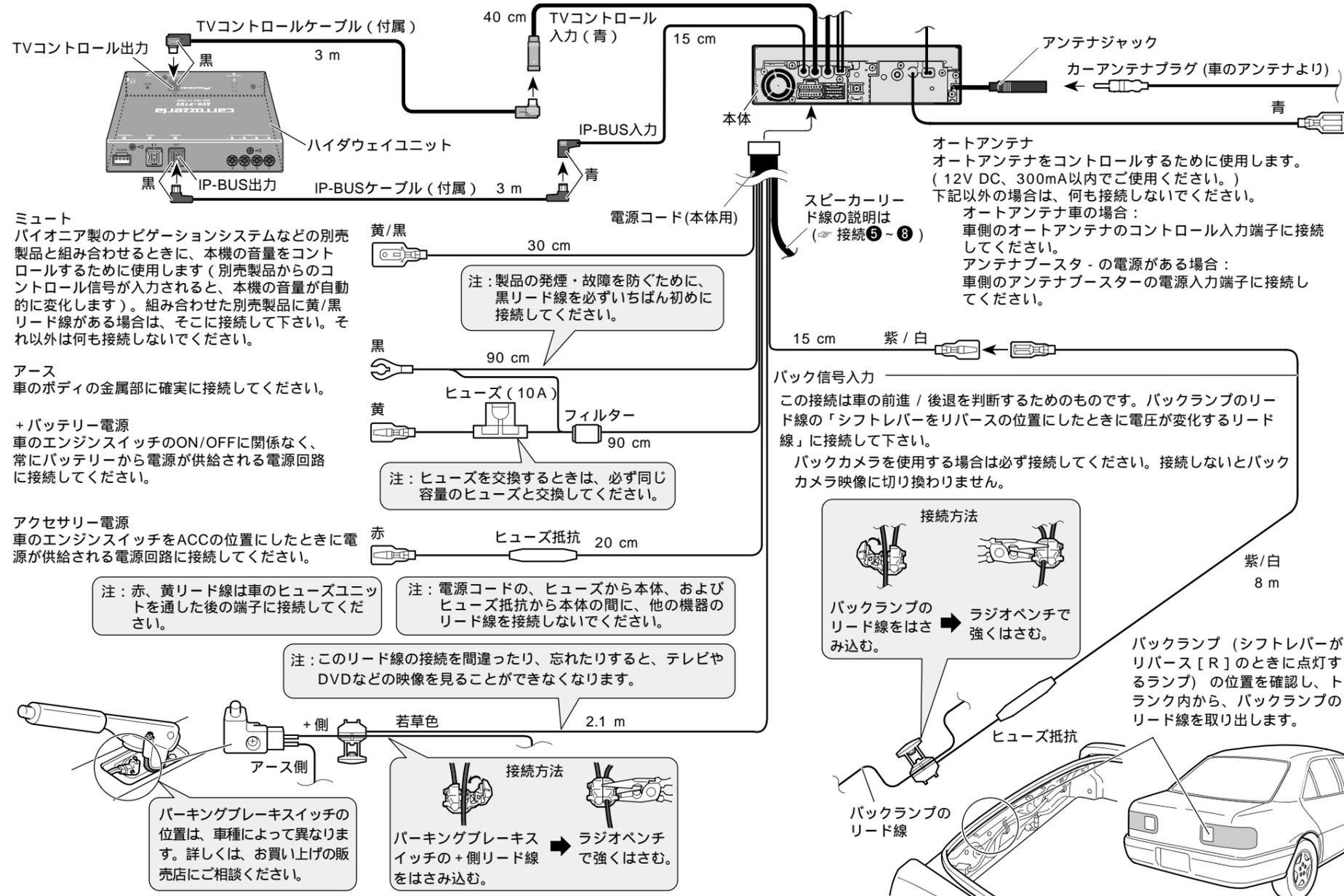


ハイダウェイユニット



- 1 IP-BUS入力 (青)**
IP-BUS出力のある製品を接続します。
- 2 TVコントロール入力**
付属のTVコントロールケーブルで、ハイダウェイユニットと接続します。
- 3 30ピンRGB入力 (緑)**
パイオニア製の30ピンRGB出力付きのナビゲーションと接続します。
- 4 映像入力 (黄)**
別売のRCAコードを使用して、RCA出力付きポータブルビデオなどを接続できます。
- 5 バックカメラ入力 (黄)**
別売のRCAコードを使用して、バックカメラを接続できます。
- 6 電源**
付属の電源コード (本体用) を接続します。
- 7 RCA入力**
付属のRCA入力コードを接続します。
- 8 デジタル出力端子**
別売の光デジタル端子変換コネクタ「CD-DD25」を使用して、本機と5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続します。
- 9 オートアンテナ (青) (20cm)**
アンテナをコントロールするために使用します。(12V DC、300mA以内でご使用ください。) 下記以外の場合は、何も接続しないで下さい。
オートアンテナ車の場合：
車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
アンテナプースターの電源がある場合：
車側のアンテナプースターの電源入力端子に接続してください。
- 10 ガイドスピーカー出力**
「DEQ-P9」(別売) を接続していない場合：
使用しません。
「DEQ-P9」(別売) を接続している場合：
・「DEQ-P9」に付属のガイド音声ケーブルを使用して、DEQ-P9の音声ミキシングと接続します。通常はこの接続を行ってください。
・別売のガイド音声用スピーカー(「CD-TS36G」) を接続してガイド音声を出力することもできます。
- 11 アンテナジャック**
カーアンテナプラグを接続します。
- 12 OSDスイッチ**
組み合わせたシステムに合わせて、ボールペンの先などでスイッチを切り換えてください。(取扱説明書)
- 13 リセットボタン**
ハイダウェイユニットの設定をリセットします。
- 14 TVコントロール出力**
付属のTVコントロールケーブルで、本体と接続します。
- 15 フィルムアンテナ電源**
フィルムアンテナの電源コードを接続します。
- 16 電源**
付属の電源コード (ハイダウェイユニット用) を接続します。
- 17 IP-BUS入力 (青)**
IP-BUS出力のある製品を接続します。
- 18 IP-BUS出力 (黒)**
IP-BUS入力のある製品に接続します。
- 19 フィルムアンテナ接続端子1~4**
付属のフィルムアンテナを接続します。1から順に接続してください。

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください



ミュート

パイオニア製のナビゲーションシステムなどの別売製品と組み合わせるときに、本機の音量をコントロールするために使用します(別売製品からのコントロール信号が入力されると、本機の音量が自動的に変化します)。組み合わせた別売製品に黄/黒リード線がある場合は、そこに接続して下さい。それ以外は何も接続しないでください。

アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。

+ バッテリー電源

車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCの位置にしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。

注：赤、黄リード線は車のヒューズユニットを通した後の端子に接続してください。

注：電源コードの、ヒューズから本体、およびヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

注：このリード線の接続を間違ったり、忘れたりすると、テレビやDVDなどの映像を見ることができなくなります。

パーキングブレーキスイッチの位置は、車種によって異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

接続方法
パーキングブレーキスイッチの+側リード線をはさみ込む。ラジオベンチで強くはさむ。

バックランプ (シフトレバーがリバース [R] のときに点灯するランプ) の位置を確認し、トランク内から、バックランプのリード線を取り出します。

バックランプのリード線

ヒューズ抵抗

接続方法
バックランプのリード線をはさみ込む。ラジオベンチで強くはさむ。

オートアンテナ
オートアンテナをコントロールするために使用します。(12V DC、300mA以内でご使用ください。) 下記以外の場合は、何も接続しないでください。
オートアンテナ車の場合：
車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
アンテナプースター - の電源がある場合：
車側のアンテナプースターの電源入力端子に接続してください。

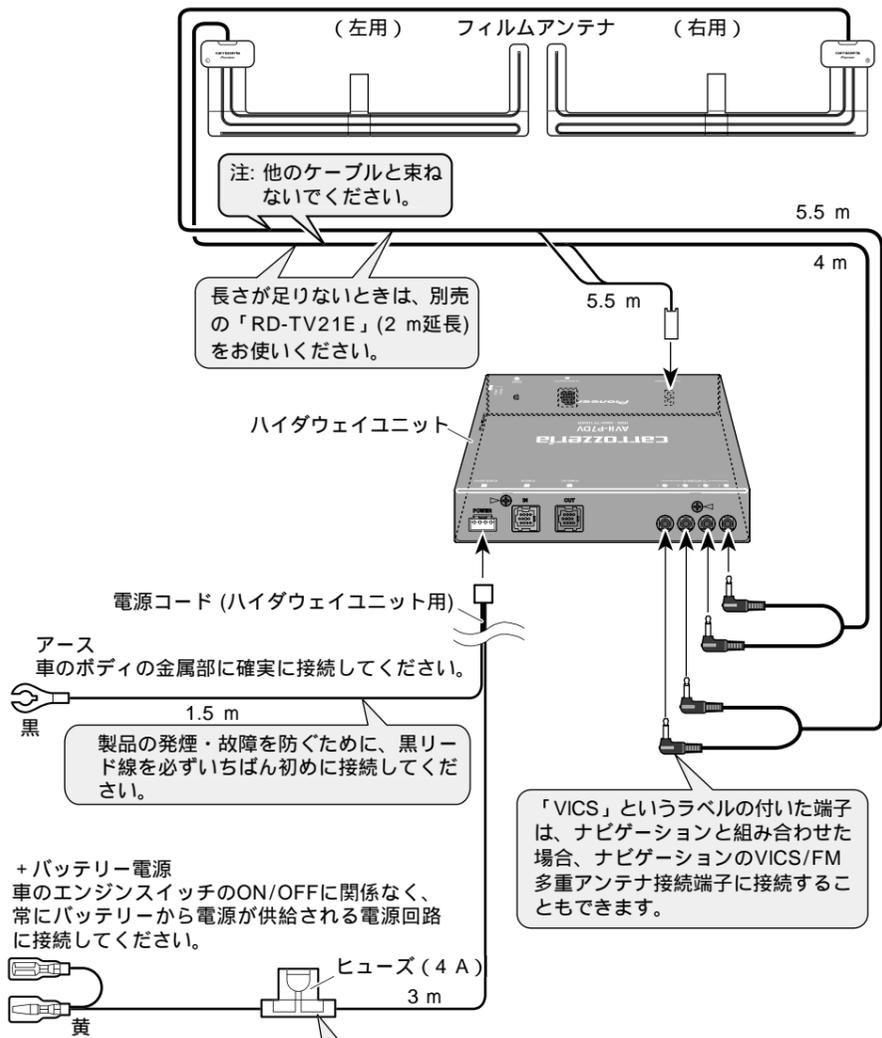
バック信号入力

この接続は車の前進 / 後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続して下さい。

バックカメラを使用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り換わりません。

接続 4 電源コードの接続 (ハイダウェイユニット)

— 詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください —



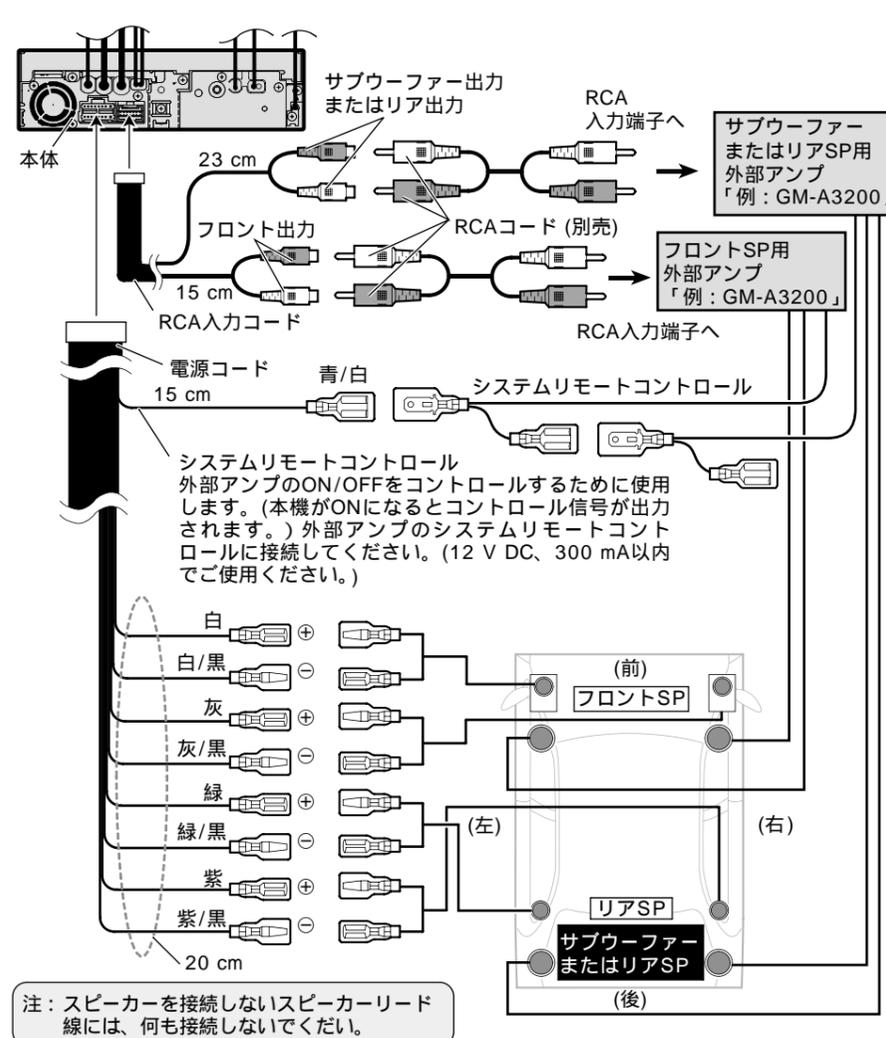
注: ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

注: 黄リード線は車のヒューズユニットを通した後の端子に接続してください。

注: 電源コードの、ヒューズから本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

接続 5 本機のスピーカーリードにサブウーファーを接続しない場合

— 詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください —

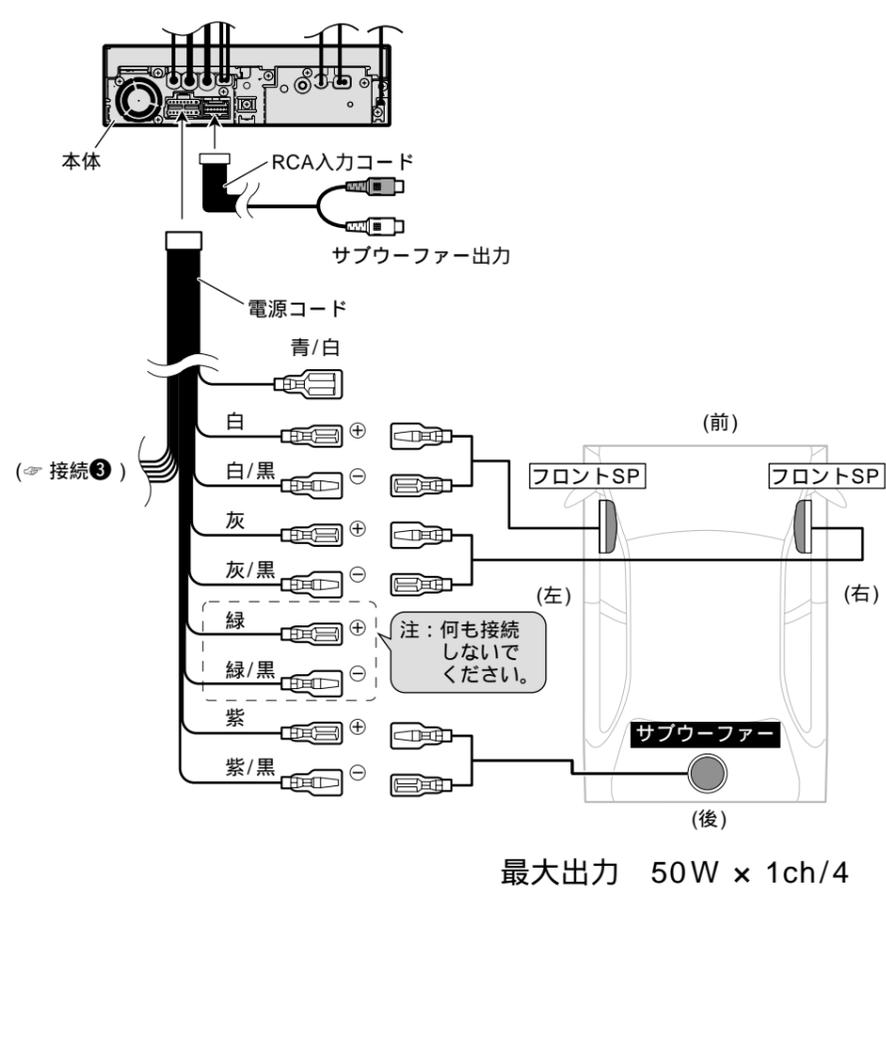


注: スピーカーを接続しないスピーカーリード線には、何も接続しないでください。

注: 接続するスピーカーに合わせて、サブウーファー出力とリア出力を切り換えることができます。取扱説明書を参照してRCA出力設定を切り換えてください。

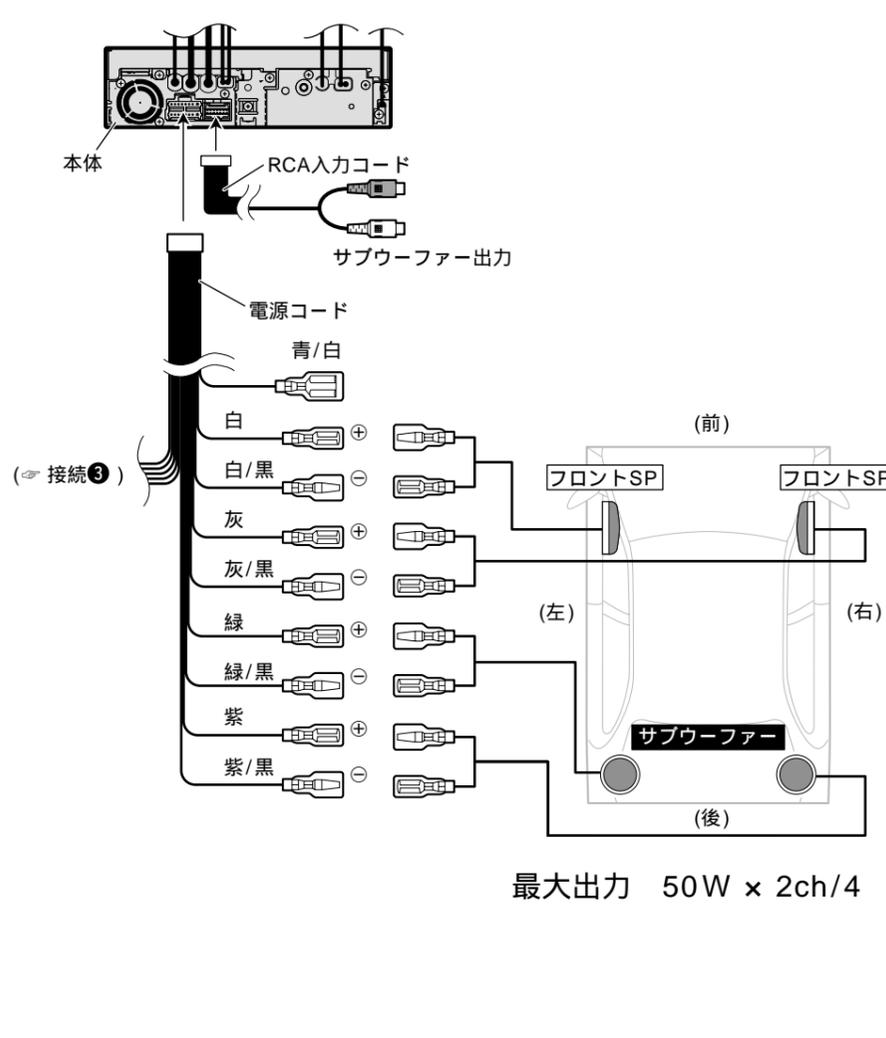
接続 6 本機のスピーカーリードにサブウーファーを接続する場合 (1)

— 詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください —



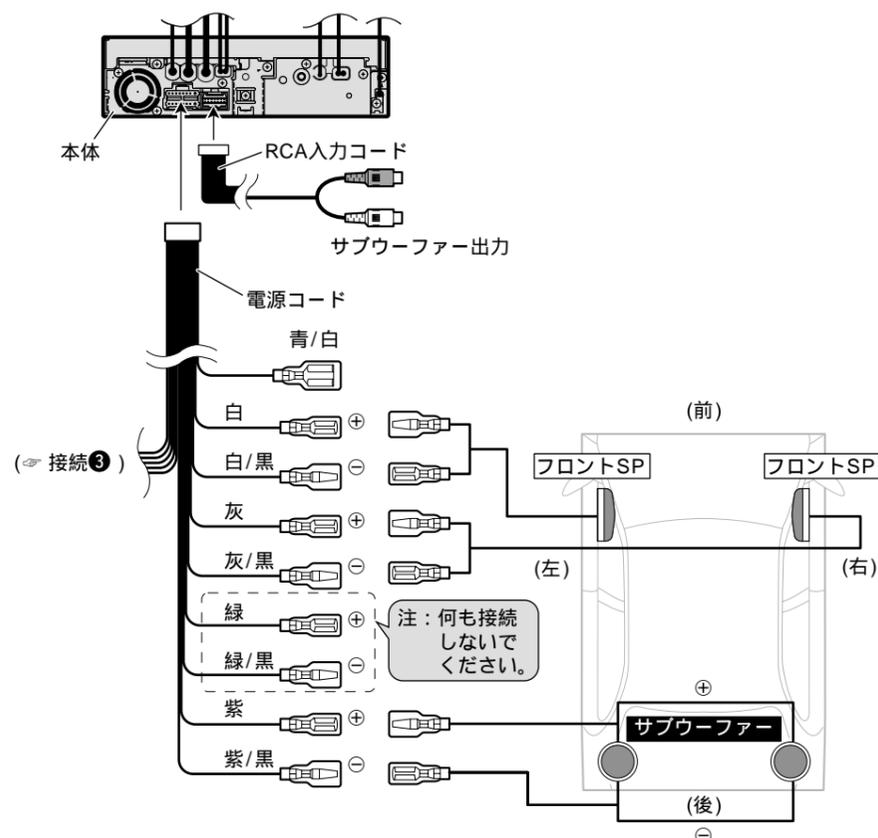
接続 7 本機のスピーカーリードにサブウーファーを接続する場合 (2)

— 詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください —



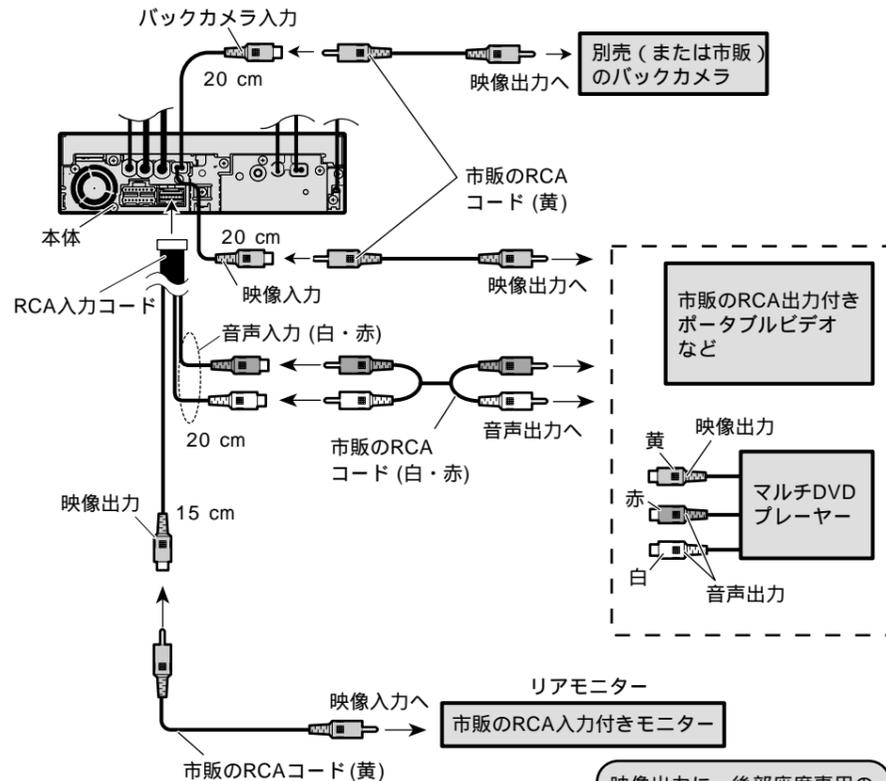
本機のスピーカーリードにサブウーファーを接続する場合 (3)

—詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください—



RCA映像 / 音声入力・出力

—詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください—



映像出力に、後部座席専用のモニターを接続すると、本機の映像を後部座席でも楽しむことができます。映像出力には、パーキングブレーキのオン/オフに関係なく映像が出力されます。

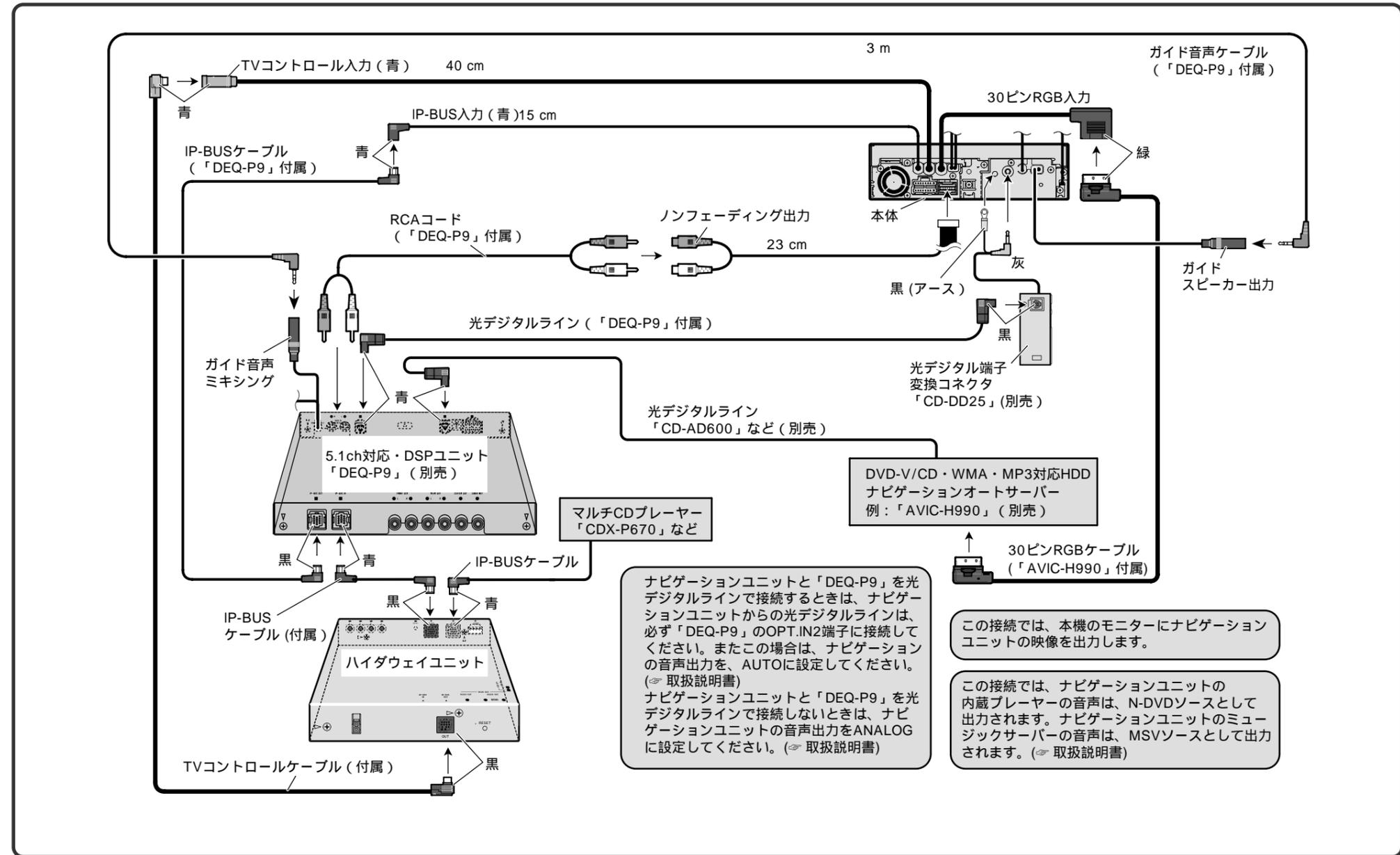
このシステムで、市販のRCA出力付きポータブルビデオを接続したときは、SETUPメニューでAV INの設定をVIDEOにしてください。マルチDVDプレーヤーを接続したときは、AV INの設定をS-DVDにしてください。

警告

映像出力に接続したモニターを使用する場合
本機の映像出力は、後部座席でDVDやビデオを見るモニターを接続するためのものです。映像出力に接続したモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができる位置には、絶対に設置しないでください。

AVIC-H990 (OPT. IN 2接続) DEQ-P9、CDX-P670との組み合わせ

—詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください—



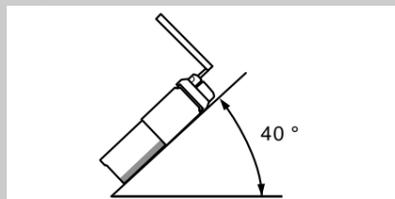
ナビゲーションユニットと「DEQ-P9」を光デジタルラインで接続するときは、ナビゲーションユニットからの光デジタルラインは、必ず「DEQ-P9」のOPT.IN2端子に接続してください。またこの場合は、ナビゲーションの音声出力を、AUTOに設定してください。(⇒取扱説明書)
ナビゲーションユニットと「DEQ-P9」を光デジタルラインで接続しないときは、ナビゲーションユニットの音声出力をANALOGに設定してください。(⇒取扱説明書)

この接続では、本機のモニターにナビゲーションユニットの映像を出力します。

この接続では、ナビゲーションユニットの内蔵プレーヤーの音声は、N-DVDソースとして出力されます。ナビゲーションユニットのミュージックサーバーの音声は、MSVソースとして出力されます。(⇒取扱説明書)

取り付け上のご注意

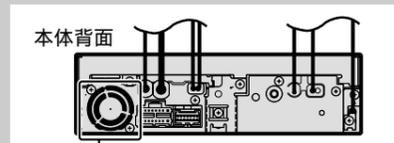
本機の性能を十分に発揮するために、水平に対して40度以内の角度で取り付けてください。



必ず本機および取付キットに付属の部品を指定通りに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。

車種によっては、モニターが立ち上がったときに、車のエアコンなどの操作ボタンを押してしまうことがあります。このようなときは販売店にご相談ください。

放熱を妨げないために、下図の部分をつさがないようにコード類を配置してください。



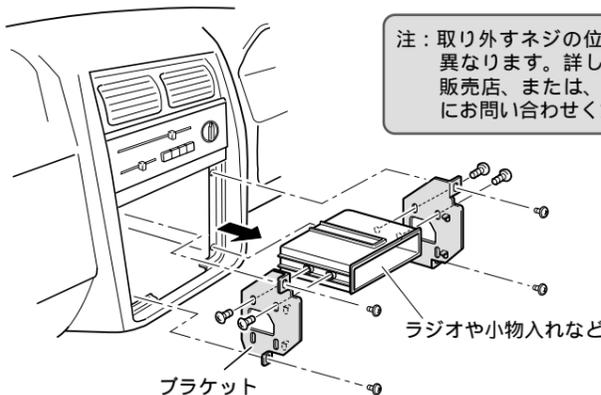
この部分をつさがないようにしてください

本機と他のカーステレオを重ねて取り付けるときは、本機を上にして取り付けください。本機を下に取り付けると、モニターが立ち上がったときに、カーステレオの操作ボタンを隠してしまい、カーステレオの操作の妨げになります。

車種によっては、モニターがコンソールやダッシュボードに当たってしまい、モニターの角度を上向きに調節できない場合があります。エアバックなどの安全装置装着車の場合は、安全装置の作動に支障のないように取り付けください。

1 車のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを止めているブラケットを取り外します。そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



注：取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

ラジオや小物入れなど

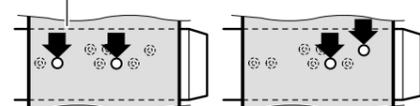
ブラケット

2 ネジ止めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。ブラケットのネジ穴は次のタイプがあります。

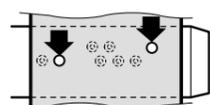
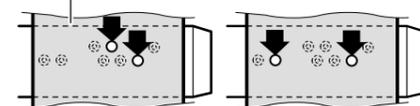
トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



日産車の場合

日産車ブラケット



取り付けスペースの奥行きが少ない車に取り付ける場合

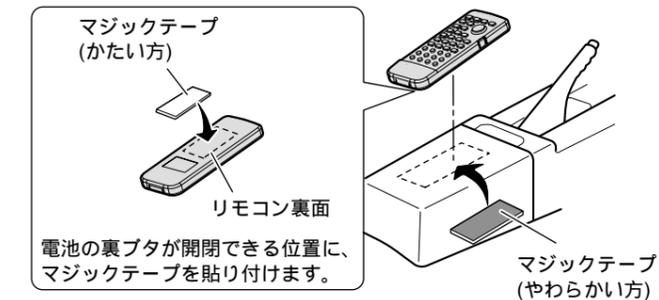
本機の奥行きは、一般のカーステレオよりもやや長くできています。通常のネジ穴の位置でコンソールに収納できない場合は、使用するネジ穴を後側にずらして取り付ける事も可能です。

例：日産車の場合

	タイプ 1	タイプ 2
通常のネジ穴を使用する場合	日産車ブラケット	
後側のネジ穴を使用する場合		

取り付けスペースの奥行きが少ないなどの理由で「後側のネジ穴を使用する場合」には、加工するなどして、必ず片側2箇所ずつネジ止めしてください。片側1箇所止めの場合、音飛びや故障の原因となります。また、車種によっては窓パネルの加工なども必要となりますので、商品の取り付けにあたっては、お買い上げの販売店にご相談ください。

付属のマジックテープのかたい方をリモコンの裏面に、やわらかい方を取り付け場所に貼り付けます。



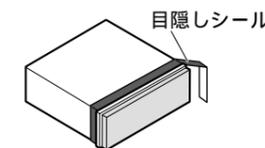
マジックテープ
(かたい方)

リモコン裏面

電池の裏ボタンが開閉できる位置に、マジックテープを貼り付けます。

マジックテープ
(やわらかい方)

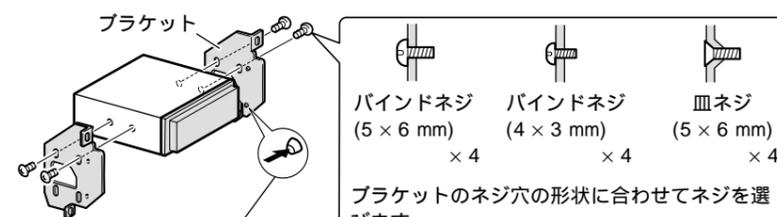
ネジ穴を後方にずらして取り付けの場合は、付属の目隠しシールを本機前面に貼り付けます。



目隠しシール

3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ2カ所ずつ、付属のネジでネジ止めして、元通り車に取り付けます。



ブラケット

- bindscrew (5 × 6 mm) × 4
- bindscrew (4 × 3 mm) × 4
- hex screw (5 × 6 mm) × 4

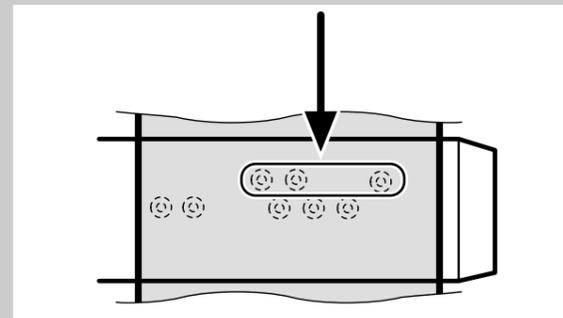
ブラケットのネジ穴の形状に合わせてネジを選びます。

車両側のブラケットの凸部やツメがじゃまになり、浮いてしまう場合は、それらをハンマーなどでつぶす必要があります。
*作業の際には安全に十分ご注意ください。

注：付属のネジ以外は使用しないでください。付属のネジよりも長いネジを使用すると、本機内部の部品をいためることがあります。

ブラケット取り付け時のご注意

左側、右側、どちらも下記のネジ穴は付属の bindscrew (4 × 3 mm) を使用してください。



取り付け上のご注意

車室内に取り付けるアンテナは、エアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなることがありますが、故障ではありません。アンテナは、フロントウィンドウ専用です。車体の側面（ドアやフロントクォーターウィンドウなど）や、後面（リアウィンドウなど）に貼り付けると、受信感度が低下する場合があります。車種によって、取り付けられない場合があります。販売店に相談してください。熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど、電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、受信感度が極端に低下します。お買い上げの販売店に確認してください。フロントガラスに横352 mm × 縦103 mmの2枚分のスペースが無い車には、取り付けることができません。ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両には、取り付けることができません。必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。

保安基準に適合させるため、本書をよくお読みにになり、正しく貼り付けてください。保安基準は、道路運送車両の保安基準第29条第4項第6号に対する、平成15年9月26日付の運輸省（現、国土交通省）令第95号をいいます。フィルムアンテナは折り曲げないように、取り扱いに注意してください。作業場所は、風が無く、空气中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んで下さい。気温が低いときに作業を行なうときは、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてフロントウィンドウを暖めておいてください。

一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼り直しできません。必ずコードおよびフィルムアンテナを仮止めし、コードの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

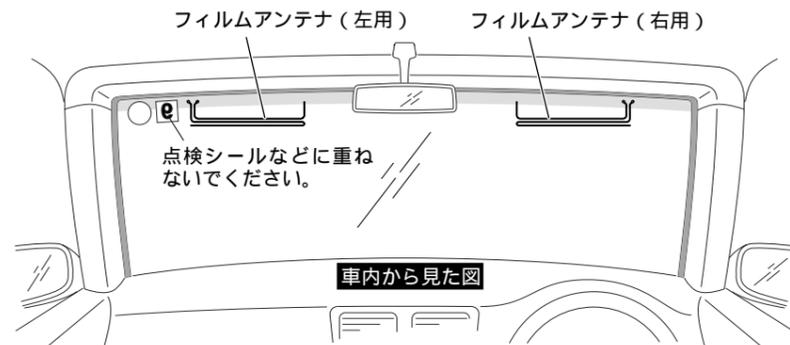
ナビゲーションと組み合わせる場合のご注意

ナビゲーションに付属の取付説明書も合わせてご覧ください。

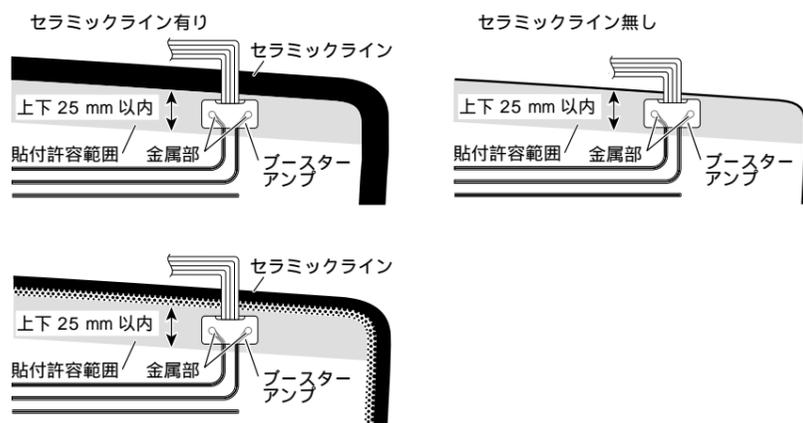
貼り付け位置について

必ずお守りください

運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず下図の「ブースターアンプおよび金属部の貼付許容範囲」の位置に貼り付けてください。許容範囲外に貼り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

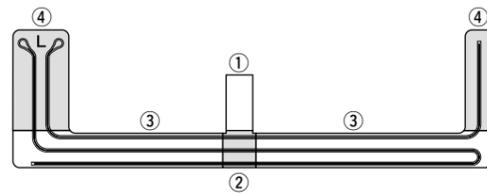


ブースターアンプおよび金属部の貼付許容範囲

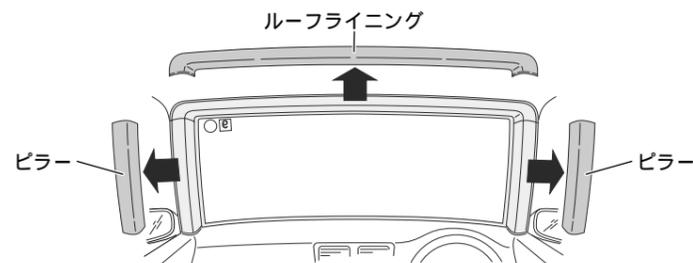


フィルムアンテナを貼り付ける

フィルムアンテナの裏シートには5本のスリットが入っています。下図の番号順に裏シートをはがし、フィルムアンテナをフロントウィンドウに貼り付けます。

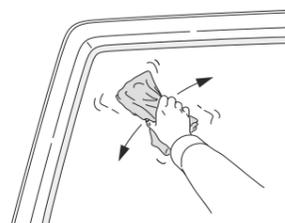


1 車内の内張り（ピラー、ルーフライニングなど）を取り外す



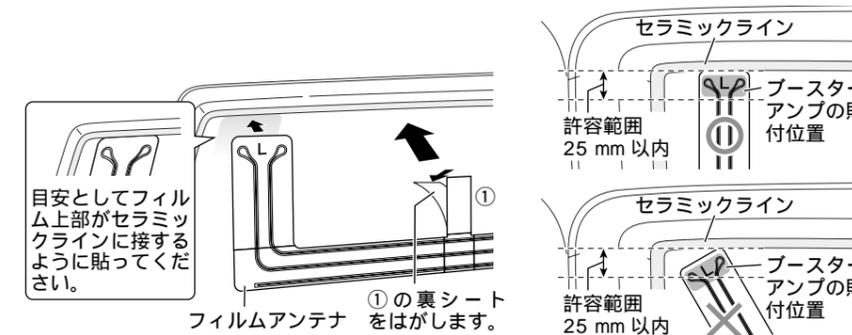
2 フロントウィンドウ内側の汚れ、油などを取り除く

フィルムアンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを、付属のクリーナークロスで取り除いてください。



3 ①をはがし、フロントウィンドウ内側に仮貼りを行い、貼り付け位置を決める

フィルムアンテナには左用、右用があります。㊸は左側に、㊹は右側に貼り付けてください。

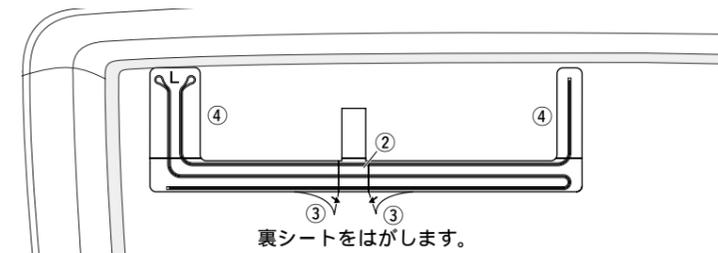


メモ

取り付け例としてセラミックライン有りの車で説明しています。詳しくは貼付許容範囲（貼付位置について）を参照してください。

4 ②～④を番号順にはがしながら、フロントウィンドウにしっかりと密着させる

③、④は左右どちらが先でもかまいません。③、④をはがす時には、内側からシワにならないように密着させてください。



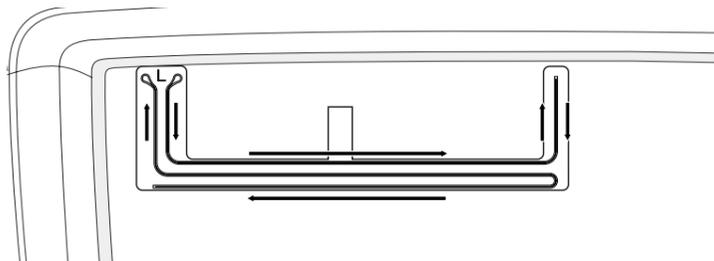
取付 5 フィルムアンテナの取り付け

つづき

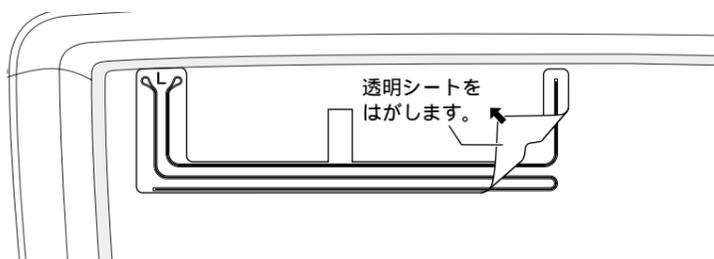
フィルムアンテナを貼り付ける

5 透明シートの上からしっかりと密着させる

下図の矢印の方向に、アンテナパターンに沿ってこすり、密着させてください。



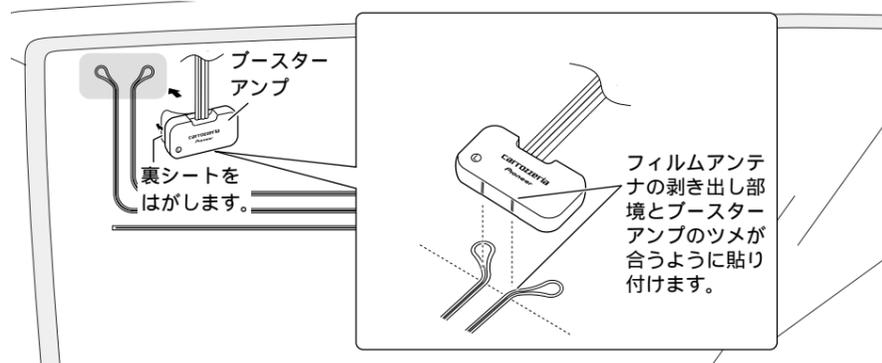
6 透明シートをゆっくりとはがす



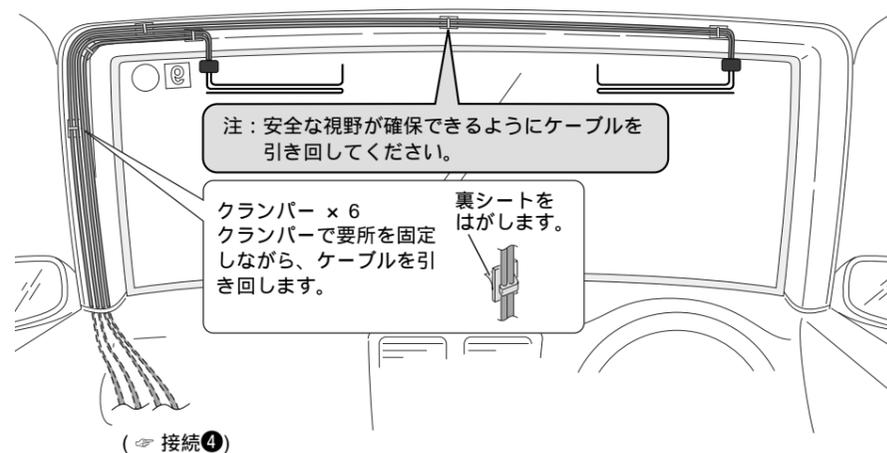
7 残りのフィルムアンテナも同様に貼り付ける

8 ブースターアンプをフィルムアンテナの金属部に貼り付ける

ブースターアンプには左用、右用があります。㉓は左側に、㉔は右側に貼り付けてください。



9 ケーブルを引き回す



10 内張りを元に戻す

動作確認 1 接続・取り付けが終わったら

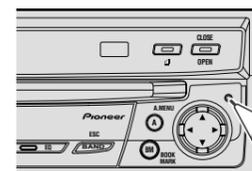
接続・取り付けが終わったら、次の操作を行って、本機が正常に動作することを確認してください。

1 接続・取り付けをもう一度確認する

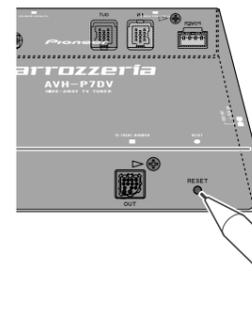
確認
接続・取り付けに誤りがないか、各コネクターは確実に接続されているか、もう一度、目で見て確認してください。

2 ボールペンの先などでリセットボタンを押す

本体



ハイダウェイユニット



3 車のエンジンをかける



4 本機の動作を確認する (取扱説明書)